

## 第5回若年層の投票率向上推進計画策定ワーキンググループ議事録要旨

- 日 時 令和5（2023）年1月30日（月）15:00～16:00
- 場 所 栃木県庁本館8階 会議室4
- 出席者
  - [委員]
    - ・若者（当事者）  
落合美帆委員、濱野将行委員
    - ・支援者  
大根田清次委員、加納麻紀子委員、長裕之委員、名村史絵委員
  - [県選挙管理委員会]
    - 菅俣宗良書記長、朝倉雄一書記長代理、大根田起司選挙係長 ほか

### 1 書記長挨拶

昨年度から開催してきた本ワーキンググループも、いよいよ本日で最終回となった。委員の皆様には、これまで熱心な御議論をいただいたことに感謝申し上げます。

昨年9月の第4回ワーキンググループにおいて計画素案を提示させていただき、委員の皆様から様々な貴重な御意見・御感想を頂戴した。その御意見等を踏まえ、計画素案の内容を充実させ、昨年12月10日から本年1月9日までの期間で、県民の皆様から御意見を頂くためのパブリック・コメントを実施したところである。

本日は、計画策定スケジュール、パブリック・コメントの実施結果及び計画最終案について御説明申し上げますので、忌憚ない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

### 2 議題

事務局から資料に基づき、「若年層の投票率向上推進計画策定スケジュールについて」、「若年層の投票率向上推進プラン（素案）に対するパブリック・コメントの実施結果について」及び「若年層の投票率向上推進計画最終案について」説明後、パブリック・コメントの実施結果及び計画案について意見交換を行った。

#### －委員意見要旨－

##### ○委員

パブリック・コメントで頂いた意見の中で、実施可能と考えるものや、実際に実施していきたいと考えるものがあればお伺いしたい。

##### →事務局

例えば、親子連れ投票の促進ということで、参院選の際にメッセージカードの配布事業を実施したが、アンケートで好意的な御意見も頂いたため、継続して参りたいと考えている。

また、これまで実施したことがない取組として、子どもにとって親子連れ投票の体験がより記憶に残るような、投票について行ったことの記念となる物の配布を検討している。

→委員

記念となる物は、もし可能であれば、子どもが喜びそうな、そのとき流行っているキャラクターグッズなどを配布することによって、親が子どもにねだられて、ある種仕方なしに投票に行かざるを得ない状況をつくることができれば面白いのではないかと思った。

→委員

パブリック・コメントの中の意見でも、お菓子やしおりの御提案があるが、これらについてどの程度現実味があるかの検討状況は如何か。

→事務局

記念となる物としては、現在、カードのような記念証を考えている。

→委員

カードになったのは、予算的な事情を含め、カードくらいでないと厳しいということか。

→事務局

予算のほか、公職選挙法の趣旨も踏まえ、総合的に検討した結果、カードのような物が良いのではないかと考えているところである。

○委員

大人でも投票済証をツイッターなどのSNSに挙げて、「選挙に参加しました」というような投稿が結構あったので、そのような物があると、子どもだけでなく、大人への発信に繋がるのではないかと思う。

パブリック・コメントについては、高校の先生からの意見が多かったということで、学校との協力についての意見も出ているということだと思う。

市の取組になるが、学生と連携した、「地元に残ろう」というようなポスターが駅に張ってあるのを見て、選挙でも、選挙啓発のために若い人と連携した何かを作っていくことも良いのではないかと思った。

○委員

プランそのものについてはある程度練られているので、今後プランを推進していく上でのお願いを申し上げたい。

プランにおけるいくつかの取組は、投開票の実務を担う市町との連携が不可欠であるという位置付けであると思うので、取組の意図や狙いを踏まえながら、市町との連携をしっかりと行っていただきたい。

また、推進方針にも記載があるとおり、プランを効果的に推進していくために必要な財源の確保も確実に行っていただきたい。

パブリック・コメントについて、高校における期日前投票所の設置を各市町に積極的に働き掛けていくことは良いが、高校が所在する市町の選挙人名簿に登録されていないと

その高校で投票することができないため、通学している高校において投票できる生徒と、投票できない生徒に分かれると思う。

高校生を含めた全ての有権者の利便性を高めるため、宇都宮市では大型の商業施設2箇所で期日前投票所を設置しているが、各市町が限られた予算の中で、地域の実情に応じた取組を推進できるよう、県には積極的な支援をお願いしたい。

→事務局

プランをまとめる中で、改めて県だけでは全てではできないと感じた。

投開票の実務を担う市町との連携を深めていかなければならないと認識しているので、今後とも御協力をお願いしたい。

○委員

パブリック・コメントでは、全体的にはプランを後押しするような、賛成の意見が多いと思う。

この先、具体的にどうしていくかについて改めて考えると、やはり「社会総がかり」の視点が重要である。

それこそ支援者としてワーキンググループに参加している我々一人ひとりも、どのように若者の投票意識を高めていくのか問われていると強く感じた。

高校における期日前投票の設置について、例えば塩谷町には私立の高校が一つあるが、町に住んでいる生徒の多くは他の市町の高校に通っているので、塩谷町の場合だと、高校に期日前投票所ができたとしても生徒は利用できないという状況が生まれてしまうと思う。

生徒の人数自体も少ないので、そこは町レベルで、塩谷町として町内の高校生にどのように投票してもらおうか考えていった方が実行性が高くなるのではないかと思った。

カードのような記念証について、効果的で魅力的な内容とすることは結構難しく、お金もかかると思うが、「社会総がかり」で取り組むためにも、県選管だけでなく、外部と連携しながら取り組んでいくことも必要であると思う。

→事務局

事業の実施に当たっては、「社会総がかり」の視点で、御協力いただけたところには御協力をお願いしていきたいと思っている。

また、ワーキンググループに御参加いただいた皆様にも、何かあれば今後とも御協力いただければ有り難いと考えているのでよろしくお願い申し上げます。

○委員

プランの中に「大学等」という言葉を入れていただいたが、特に「等」の部分が非常に重要であると考えている。

県内の高校生の進路を見ると、大学進学者のほとんどは県外に進学しており、一方で専

門学校への進学は県内が多い。

大学だけでなく、県内専門学校の学生をターゲットにしていくと効果が上がると思っているので、「等」の部分も吟味し、実行に移していただきたいと思う。

→事務局

プランの記載としては「大学等」となっているが、ターゲットとしては専門学校の学生も重要と考えているので、今後具体的な事業の検討を進めていきたいと思う。

### 3 その他（書記長挨拶）

若者や支援者、そして県民の声を聴きながら、若年層をターゲットとした投票率向上のための計画を策定することは、実は都道府県では全国初である。

お陰様で、プランという形でまとめることができた。

ただ、プランを作ることがゴールではないため、PDCAサイクルを回しながら、磨きをかけていくことが必要であると思う。

4月に予定されている県議会議員選挙を第一段階として、できることから手を付けて取り組んでいきたいと考えている。

引き続き皆様の御協力を賜りたい。これまでの御議論に感謝申し上げます。